



## 流れ行く 大根の葉の

早さかな

高浜虚子

色と季節を組み合わせ、人生に重ねることがあります。青春の次に来るのは朱夏。そして白秋、玄冬と続きます。古い中国の五行説にある言葉です。年月を重ね振り返れば、玄冬は後期高齢の時季を言っているのでしょうか。

ドラえもんには1963個の「ひみつ道具」があるといえます。すぐ目的地に行ける「どこでもドア」をはじめ「タケコプター」「タイムマシン」もあります。「タイムマシン」というひみつ道具で青春の時代から玄冬を眺めることができれば、今、何を思うのでしょうか。

漂泊の俳人、種田山頭火に、「濁れる水の 流れつつ 澄む」という句があります。山頭火にとって川の流れとは放浪の旅路であり、流れながら澄んでいく水とは人生そのものの言い表しています。「年忘れ」という言葉を見聞きする季節になると、この一句が頭

をよぎります。憂愁。悔恨。痛憤…。

この一年、身にまわり付いた濁りの水を、時の流れに置き捨てていくからこそ、人は新たな明日を生きられるのだと思います。

しかし、川の石や砂で濾過することができない記憶を抱いて、流れても、流れても「澄む」ことの叶わないこともあります。

聞く人の立場次第で、どうとも受け取れる言葉を日本では「玉虫色」といいますが、玉虫色とは、玉虫の羽のような金属的な光沢を帯びた美しい金緑色・金紫色をいいます。光線の角度、つまり見方によって輝く色が変わって見えるのが特色です。

織物の玉虫織は縦糸と横糸を異なった糸で織り、やはり玉虫の羽のように、光線の具合で色が変わります。玉虫色の意味合いと効用はよく知られていますが、見方によって

解釈の変わるところが物事の決着に影響することもあります。

12月、人權週間が始まります。ある人は人權をシャボン玉に例え、「傷つけば簡単に はじける」と話しています。今も、どこかでシャボン玉が はじけていないか、大きい声の中に紛れるかすかな「衣ずれの音」にも耳を澄ませたいと思います。

民家の庭先で大根が小春日を浴び輝いています。今や珍しくなった風景に、巡る季節を実感しています。

誰かが大根を洗ったのでしようか、大根の葉がせわしく流れて行きます。



指宿市長  
豊留悦男